

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

11
No.753

P2 特集

「ストップ・ザ・無縁社会」絆つなげる 明日へつながる⑮

小規模集落からみえる地域づくりのヒント

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

P7 みんなでつくるひょうごの福祉

すべての子どもたちに機会と夢を
～チャンス・フォー・チルドレンの取り組み～

P8 兵庫県からつなく被災地支援

P9 地域を駆ける! ワーカー物語

社会福祉法人 福竹会
ホームヘルプサービスセンター鹿児の郷
赤池 和子さん

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション





「ストップ・ザ・無縁社会」 絆つなげる 明日へつながる^⑮ 小規模集落からみえる 地域づくりのヒント

現在、高齢化や人口減少、単身世帯の増加などを背景に地域社会の状況が急速に変化している。特に、中山間地域における小規模な「集落」の変化は著しく、地域を支える人が減少して共同体としての自治や行事が困難になるなど、住民同士の「つながり」が希薄になってきている現状がある。

今回の特集では、地縁が根付いた「集落」だからこそできる、支え合いの知恵や工夫と、そこから見える地域づくりのヒントを紹介する。



「うみがみ元気村食堂」の様子から(3ページ)

集落で
暮らし続けるために

「敬老の日」の9月16日を前に、総務省は全国の高齢化率が25.0%にのぼり、初めて4人に1人が高齢者となったことを公表した。兵庫県は全国平均に比べて低いが、30%を超えている市町も増えている(図表1)。

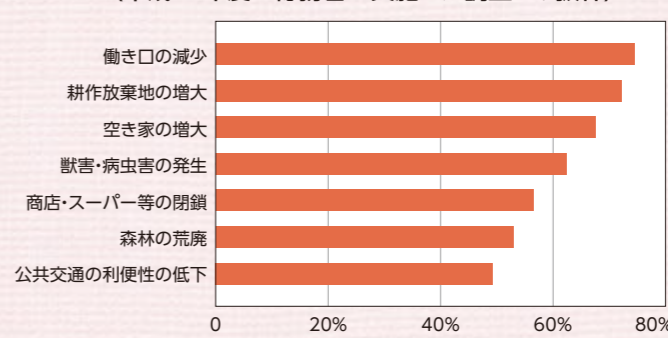
■図表1 兵庫県内の市町別高齢化率(30%以上のみを抜粋)

順位	市町名	高齢化率
1	香美町	35.3%
2	養父市	34.4%
3	佐用町	34.3%
4	新温泉町	34.1%
5	淡路市	34.0%
6	神河町	31.6%
7	朝来市	31.0%
8	相生市	31.0%
9	上郡町	30.9%
10	洲本市	30.7%
11	市川町	30.5%
12	多可町	30.5%
13	南あわじ市	30.3%
	県合計	24.3%

(総務省統計局、平成25年2月1日現在)

特に、中山間地域などの「集落」における高齢化率の上昇は、単身世帯の増加や少子化と相まって、お祭りや老人会、自治会の行事が縮小・廃止になるなど与える影響も大きい。同じ地域の人と顔を合わせ、一緒に何かをする機会の減少は、地域のつながりの希薄化を助長することになる。

■図表2 集落で発生している主な問題(平成22年度に総務省が実施した調査より抜粋)



※横軸は、該当する問題が発生していると回答した「過疎地域自立促進特別措置法」に基づく過疎地域市町村等の割合

こうした中、暮らしの課題に向き合った支え合いの地域づくりが県内各地で取り組まれている。過疎化が進む中山間地域の集落での取り組みは、都市部の「ゴールドニュータウン」の地域づくりにおいてもヒントになるだろう。いくつかの集落での取り組みから、誰もが住みやすい地域づくりのヒントを探ってみよう。

事例

集落みんなが元気に、
そして笑顔をもっとに
「うみがみ元気村(新温泉町・海上地区)

海上地区は、鳥取県境にある人口約130人、高齢化率47%の小さな集落で「うみがみ元気村」と呼ばれている。この名称は「みんながいつまでも元気で暮らせるよう、気軽に集える場になりたい」との思いから住民で話し合って決めたものだ。

同地区は平成21年度からの3年間、県の「小規模集落元気作戦」*のモデル集落に選定された。モデル期間終了後も「なんとか元気な地区にしたい」という思いから話し合いを継続し、二つの活動に力を入れることになった。

一つ目は、山菜や牛肉などの地元食材を生かし、作る楽しみに加え、「売る」楽しみも備えた「うみがみ元気村食堂」の運営である。食堂に来られない人に気付いた女性陣からの提案で、自宅への配達も行っている。

二つ目は、空き家を改修して元気村食堂の隣に作った「こいの部屋」の運営だ。部屋の壁は住民手作りの



女性陣による共同作業

但馬牛を使った肉うどん定食

温もりのある雰囲気、24時間365日開放されており、いつでも誰でも自由に利用できる。困ったことがあってもそこにいけば誰かがいて、一緒に考えてくれる地域の居場所としても機能している。

今後の課題は、このうみがみの財産を次世代へ引き継ぐことだ。「今をより楽しく、そして、村の衰退を少しでも食い止めたい。それに向け、なだらかに焦らず、できるだけ村の皆さんが利用して関わってもらおうようにしています」と区長の尾崎さんは話す。

リーダーのひとこと



「今日をより楽しく、皆で仲良く暮らしましょう」
(区長の尾崎さん)

事例から見えるヒント①
話し合いから生まれた
地域住民の「居場所づくり」

食堂や「こいの部屋」が地域住民の居場所になった最大のポイントは、住民自らが拠点の活用方法について何度も話し合ってつくり上げてきたことにある。そして、高齢により足を運ぶことができない住民に対する配慮の心配りも、拠点を地域全体の居場所にする工夫である。

もう一つの大きなポイントは、資源の生かし方にある。空き家を改修したり、地元食材を使うなど、地域の資源を最大限に生かし、足りないものは行政施策などの外部支援を積極的に活用するという資源調達も大いに参考になる。

*「小規模集落元気作戦」…兵庫県の施策で、地域再生に向けた住民の自主的な取り組みを支援している。詳細は兵庫県ホームページ参照(交流・地域)「地域情報」→「地域再生大作戦」→「小規模集落元気作戦」。

事例

語り合いが孤立の防止に
ふれあい喫茶和(朝来市・南真弓区)

但馬南部の山あいにある南真弓区の世帯数は90世帯、高齢化率は33%を超え、過疎化と少子高齢化が進んでいる。

そんな南真弓区では、毎週水曜日に地域の集会所でふれあい喫茶「和」を開催している。みんなが遠慮なく参加できるよう参加費は100円。男性の参加者も多く毎回盛況で、「コーヒーとお菓子を食べながらの会話に花が咲いている。」

「寂しくなる地域を見て、何とか地域を盛り上げられないだろうか、みんなが気軽に集まる場ができればと思っていたんです」と語る世話役の木原さん。住民の思いを受け止め、区長や民生委員など役員の後押しも受けて始まった「和」は今年で4年目。区の活動として定着し、区外の人も噂を聞きつけてやってくるほどだ。

「耳が遠くなったりして、出歩けなくなると、ホッとくつろいでいるみんなの笑顔を見て、とても嬉しいで



みんな元気!「いきいき100歳体操」

事例から見えるヒント③
地域ならではの「生活課題」に向けた取り組み
 海沿いの集落である下田町内会では、「災害」を地域の生活課題として取り組みを続けてきた。取り組みのポイントは、気軽に住民が参加できる活動を重層的につくってきたことだ。自分たちの地域の生活課題に対して、地域全体で主体的に立ち向かう動きをつくってきた点に注目したい。

地域の課題は、福祉だけでなく、災害や防犯、農地保全など多岐にわたる。地域課題に丸ごと対応していく視点に加え、住民が取り組みやすい活動から始めて継続することも、これからの地域づくりの大きなヒントとなる。

「限界集落」という言葉に代表される集落の状況からは、活気の失われた地域をイメージしがちである。しかし、実際に集落を訪れてみると、農作業を続ける高齢者をはじめ住民の「元気さ」と地域の活気が感じられる。この「元気さ」や活気の源の一つは、「愛着ある集落を、私たちがより良くしたい」という住民たちの思いである。もう一つは、高齢者を含めてみんなが地域の一員として役割を持って暮らしていることにある。

一人一人が役割を發揮し、支え合いのある地域をつくるためのポイントは何か。紹介した集落に共通することは、住民同士の交流と話し合いの場を丁寧につくっている点である。自治会役員など一部の住民だけでなく、幅広い住民が入り込んで、交流の中から会話と話し合いが進む仕掛けが工夫されている。具体的には、空き家や集会所などの拠点を生かし、食堂や喫茶、各種教室活動など住民が楽しみながら自然に交流

地域に根付いた「集落」ならではの工夫

できる場をつくること。ここでは、支える人・支えられる人の区別はなく、あくまで楽しく交流することに主眼が置かれている。こうした交流から「お互いさま」の関係を築くのは、集落に限らない地域づくりのヒントだ。

また、地域リーダーの存在も大きい。住民の声・思いを引き出す働きかけや話し合いの場づくり、地域の資源を生かす視野の広さ、行政や関係機関を巻き込む力など、すぐれたリーダーは、住民の思いと資源をつなぐコーディネーターの役割を果たしている。

なお、今回紹介した活動は自治会エリアであったが、単一集落ではできない活動を補完する組織として、小学校区エリアで「まちづくり協議会」「地域自治協議会」などの「コミュニティ組織を再編する自治体が多い。住民同士の日常的な見守り・支え合いはお互いの顔が見えるエリアで取り組まれるが、移送や買い物支援などの生活支援サービスは、集落を越えて広域で展開することも重要になる。

最後に、住民の地域における継

予告

「第2回 町内・集落福祉全国サミット IN淡路」が開催されます!

急速な人口減少・少子高齢化が進む中、全国の先進的な取り組みを学ぶとともに、淡路島の地域福祉活動の魅力を探り、全国に広く集落福祉の意義を発信することを目的に淡路市で開催されます。

開催日 平成26年2月15日(土)、16日(日)

会場 淡路市しづかホール他 **定員** 800人

※詳細が決定次第、開催要綱等を本会ホームページで掲載いたします。

ぜひ参加してね!



民生委員の小田さんも、「ここでは何気ない会話から、いろんな情報が飛び交います」と語る。地域で孤立しがちで喫茶に来られない方の様子もつながりのある参加者から聞いている。「和」では、和気あいあいとした自然な雰囲気大切に、何気ない会話から住民同士のつながり大切さをますます感じているという。



おいしいコーヒーとお菓子をつまみながら、自然と会話に花が咲く



住民同士の交流から「お互いさま」の関係が生まれる

事例から見えるヒント②
気軽に集える場からはじまる「つながりづくり」
 「和」は、住民同士が気軽に参加できる交流の場である。お互いが知り合って、「和」以外の場でも、自然に声を掛け合える関係ができていくことが、この活動の大きなポイントだ。

地域内の結びつきが強いといわれる集落でも、最近は顔を合わせて世間話をする機会は減ってきている。特別なプログラムでなく、お茶とおしゃべりを楽しむ気軽な場が、こうした関係づくりにつながった。「何でも話せるような自然な場づくり」が、住民の見守り・支え合いの一步になる。

リーダーのひとこと



「和」の活動は、住民の皆さんのやる気が支えています(区長の坂本さん)

りが広がり、自然と近隣の様子を気遣う関係が生まれてきている。現在では、「和」に参加できない住民が地域で孤立しないよう、支え合いマップづくりも始まった。

事例

自分たちの地域は自分たちで守る!

「下田町内会」(淡路市・下田地区)



災害に備えた訓練の様子

淡路島の北東、大阪湾に面した下田町内会は全123世帯。75歳以上のひとり暮らしの方の割合は15%にも上る。

単身の高齢者世帯が増える中、住民が力を合わせて取り組んでいるのが「災害」への対応だ。下田は、海に面した土地柄、高潮と台風が来るたび海水に浸かる被害を受けた歴史がある。さらに、町内で火事が続いたことから昭和40年代以降、住民による自主防災組織の活動が始まった。

災害への取り組みは、一人暮らし高齢者など要援護者の避難者名簿の作成、町内会館への装備品の配置、初

リーダーのひとこと



「自分らの地域は、自分たちで守りたい」「地域の皆が元気であることが、活動のチカラです」(老人クラブ第4クラブ長の畠田さん(左)と町内会長の井筒さん(右))

期消火訓練や津波を想定した避難訓練の実施、婦人会の協力を得て実施する炊き出し訓練などさまざま。起こるかもしれない災害を「自らの地域の課題」として共有し、集落をあげた取り組みを重ねている。

また、この地域には、体操やサロン、老人大学、海岸の清掃活動など、高齢者の居場所役割がさまざまなかたちであり、皆が忙しい毎日を送っている。特に、週2回の「いきいき100歳体操」には、開始前から、地域の高齢者が集まり始め、話を花を咲かせる。体操は介護予防だけでなく、皆が顔を合わせ、互いの元気を確かめる場としての意味を持つ。いつも来る方の姿が見えないとなれば「あの人はどうしたのか」という声もあがり、一種の見守りの機能も果たしている。



今では多くの小学生や中学生が学習塾や英語教室などに通っているけど、生活保護世帯など経済的な理由で通いたくても通えない子どもたちもいるんだ。一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン(CFC)は、このような子どもたちが塾や予備校・習い事に利用できる学校外教育バウチャー※の提供を日本で初めて行った団体なんだ。

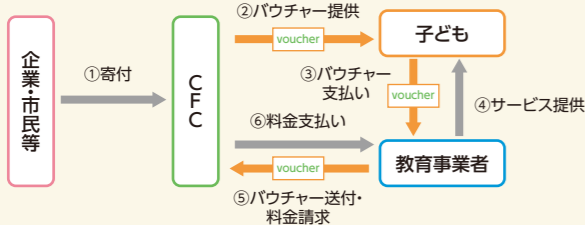


みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

企業市民等
①寄付
CFC
②バウチャー提供
voucher
子ども
③バウチャー支払い
voucher
教育事業者
④サービス提供
⑤バウチャー送付・料金請求
⑥料金支払い

■バウチャー提供のしくみ



多様な関係者の参加により広がる支援

家庭環境によって、子どもたちの学力や社会性を育む機会に格差が生まれつつある。同法人の活動は、このような社会的な課題に対応するため、平成21年にNPO法人プレインヒューマンティ※のプロジェクトとして始まった。バウチャーの配布という今までにない取り組みを支えているのは、事業に賛同する市民や企業、団体からの寄付だ。平成24年度には約200人の個人と35社以上の企業・団体から6,000万円を超える寄付金が集まった。現在、バウチャーは同法人のバウチャー取扱事業者として登録する全国約95カ所の学校外教育機関(塾・予備校など)で利用

すべての子どもたちに機会と夢を

～チャンス・フォー・チルドレンの取り組み～

バウチャーを利用する子どもたちには、月1度の相談機会が設けられている。ここで相談相手となるのが、専門的な研修を受けた学生ボランティアだ。進路や学習状況について大学生がサポートすることにより、子どもたちの学ぶ意欲を継続的に支えている。学生ボランティアからは、「子どもたちが将来の夢をみつけて変わっていく過程に寄り添うことができた」など手応えが語られる。

子どもの夢を支える仕組みづくりを



photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

が可能となっている。多数の企業やボランティアの参加により、平成25年度には全国で194人の子どもたちがこの仕組みを利用して

取材を終えて

同法人は、すべての子どもたちが多様な機会の中で成長できる社会を目指して、先駆的に活動を続けてこられました。世帯の収入に関わらず、あらゆる子どもたちの成長機会が守られる場づくりを、地域関係者とともに進めていくことが重要であると感じました。

一般社団法人 チャンス・フォー・チルドレン
西宮市甲園園1丁目3-12 カミヤビル3階
☎0798-63-4442 <http://cfc.or.jp/>

※学校外教育バウチャー!...学習塾等にかかる授業料に使用目的が限定されたクーポン券のこと。子どもたちは自らが希望する学習塾等の授業料としてバウチャーを支払う。
※NPO法人プレインヒューマンティ...阪神・淡路大震災を契機に被災児童等の学習支援活動等を進めてきた団体(拠点は西宮市)。

や夢を断念させないことが大切。多くの関係者と連携し、学校外教育の機会を守る仕組みを広げていければ」と抱負を語る。今後は子どもたちの意欲をさらに促す新規事業の開発も含め、支援の輪を広げていく予定だ。

「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ! 全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

メッセージ

全県キャンペーンに対して、多くのメッセージをお寄せいただいています!
(平成25年度推進協議会総会、第52回社会福祉夏季大学の参加者より)

民生委員・児童委員の皆さんから

- 向こう三軒両隣がコミュニティの基本ではないでしょうか。
- 知らない方に声をかけ合うところから始まると思います。あいさつだけでも一歩になるのかな。
- 私たちの地域では、食事会や趣味の会などで時々お会いしてお話をしています。楽しいです。
- 地域包括支援センターなどの体制強化により、「無縁」を無くす窓口を一本化し、困った人の話をしっかりと聞ける体制を作ることが大切だと思います。

社会福祉協議会関係者の皆さんから

- 小中学校の福祉教育をもっと充実させ、「困った時には福祉をどう利用すればよいのか」を知っていれば、もっと福祉サービスを利用できるようになるのではないのでしょうか。
- 核家族は、一時は皆が憧れるのですが、歳を取ると何世代も一緒に生活が良いと感じます。
- 「無縁社会」は人災の一つ。意識の変化を促すアクションを一人一人が起こしていくことが求められるのではないのでしょうか。

福祉施設関係者の皆さんから

- 「無縁社会」は自業自得です。ゴミを違う日に平然と出す、他人と関わりたくないなど、人間の社会からの離脱志向が一因にあると思います。
- 「無縁社会」を楽しく乗り越えるためには、色んな世代が交流できる機会を地域で少しずつ増やしていければ良いと思いました。

行政機関関係者の皆さんから

- 友人にも未婚の人が多く、若い世代は一人っ子が多いので、今後は周囲に頼れる人が減ってくると思います。
- 隣人に対して、勇気を出してあいさつしてみる。そこからはじまる「無縁からの縁」もあるのかなと思います。

当事者団体の皆さんから

- 「無縁の縁」という言葉を知り、「無縁社会」には課題が山積していますが希望や可能性も感じました。

メッセージはキャンペーンホームページ(<http://stop-muen.jp/>)でも受け付けているよ。
皆さんの声を聞かせてね!



TOPICS

協賛事業のお知らせ

このたび、キャンペーンの協賛事業として、下記の行事が開催されますので、お知らせいたします。

第6回はっぴ〜カーニバル

(主催:西市区民参加による障害者安心ネットワーク
-KOBEST WEST NET-)

日時 平成25年11月30日(土)
10:00~15:00

会場 西神中央プレシティ広場
(神戸市西区)

内容 バザー、体験コーナーなど

※詳細はキャンペーンホームページにチラシを掲載しています。



キャンペーン動画をYouTubeで公開!

推進協議会の平成25年度総会でも上映しました、キャンペーンの取り組みに関する最新動画を、動画共有サイトの「YouTube」にアップしました。ぜひ、ご覧ください!



URL <http://youtu.be/TlgG9nmYgxM>
(キャンペーンホームページからもリンクしています)

このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

初めて担当した方が「もう何年も湯船に漬かったことがない、一度入りたい」と言われたのですが、自宅の浴槽は深く、小柄な方でしたので入浴は難しいように思われました。そこで、衣装ケースを簡易浴槽に見立て

印象に残るエピソードは？

阪神・淡路大震災で被災された方々の生活を支えるボランティアを経験したことがきっかけで、高齢者を支援する仕事に就くことになりました。施設に勤務した当初は、日々の仕事に精一杯で、入所者の方にどう向き合っていけばいいのだろうと暗中模索していました。そんな時、ある研修会で訪問介護の講義を受け、高齢者や障害をお持ちの方が地域の中で、自宅で生活できるように支えていきたいと強く思い、ヘルパーとしての仕事がスタートしました。

あなたの原点は？

て入浴していただきました。小さな浴槽でしたが、頬がピンク色になり、何度も「気持ちいい」と言われたことが忘れられません。この時一緒に対応してくださった看護師から、五感をフルに活用して援助にあたること、他職種の方と連携して支えていくことの大切さを教えていただきました。

力を入れたい活動は？

現在の法人では、「地域サポート型特養」※として6月より24時間の地域見守りサービスを開始しました。法人の理念でもある「老後の安心支えます！」の下に、独居高齢者、認知症の方がなじみのある地域の中で安心して生活していただけるよう、民生委員や地域の社会資源等とお互いに連携しながら「訪問、相談、緊急通



「いつもと違う」を敏感にキャッチするためにも、心身共に健康でなくてはと思っています。人生の先輩である高齢者の方々から多くのことを学ばせていただきながら、チームの間と共に元気をお届けしたいと思っています。

取材を終えて
笑顔がすてきな方で、周りの利用者や職員にその笑顔が自然に広がっているのが、印象的でした。震災を機に福祉の仕事に挑戦され、介護福祉士や介護支援専門員などの資格も取得された努力家で、また地域で認知症予防教室も開催するなど、地域の方を連携して支えていくという思いが伝わってきました。

社会福祉法人 福竹会
ホームヘルプサービスセンター鹿兒の郷

赤池 和子さん

Personal History

- 43歳 福祉施設で介護職員として勤務
- 44歳 訪問介護事業所に勤務
- 54歳 ホームヘルプサービスセンター鹿兒の郷に勤務
- 現在 同センターでサービス提供責任者として勤務中



地域を駆ける！
ワーカー物語

笑顔で、大切な地域の方々を
皆と力を合わせて支えていきたい

ひょうごボランティアプラザ

ボランティアによる
継続した被災地支援

県社協ひょうごボランティアプラザでは、今夏、8月4日～7日と同月13日～15日の2回にわたり、東日本大震災の被災地へボランティアバスを運行し、総勢80人のボランティアが各地で支援を行った。

8月5～6日には、現地主催の伝統行事「第44回仙台七夕花火祭」の運営協力のほか、東松島市の赤井中央公園仮設住宅付近で、津波による泥が現在も残る側溝の掃除の後、「国際現代」水墨画協会から託された励ましメッセージの描かれたうちわを仮設住宅の住民に贈呈し、にぎやかに交流を深めた。

同14日には、名取市愛島東部団地仮設住宅において、兵庫県手延素麺協同組合の協力による手延そうめん「損保乃糸」を、地元のNPOである賢和会「男の台所」※との協働により「流しそうめん」として提供し、楽しく世代間交流を図った。また、「神戸・市民交流会」および「阪神淡路大震災1.17のつどい実行委員会」と協



流しそうめんを楽しむ仮設住宅の住民(名取市)



日和山公園に植樹した桜(名取市)

働いて、竹灯籠に炎を灯し津波で犠牲となった方々を悼悼した。

今回のボランティアバスに先立つ6月には、名取市閑上地区にある日和山公園に兵庫県ボランティアが被災地の復興を祈って、「鎮魂と希望」の桜を植樹。今後、桜の成長を楽しみに、阪神・淡路大震災を経験した私たち兵庫県民だからこそできる支援を続けていきたい。

※仙台市を中心に、高齢男性による食を通じた社会貢献に取り組んでいる団体。

復興公営住宅の移行支援に向けたワークショップを開催

現在、東日本大震災の被災地では、復興公営住宅の建設と転居が進められている。復興公営住宅への転居にあたっての課題と必要な支援について、兵庫県内の支援者と宮城県内の研究者らが集まって7月にワークショップを開催した。

阪神・淡路大震災当時の行政・社協職員、民生委員児童委員、仮設支援員からは、仮設住宅から復興公営住宅に転居された方々への支援の引継ぎができなかったこと、特に支援が必要な住民には転居への不安にしっかり寄り添い、丁寧に情報を伝える必要があることなど、活発な意見が出された。今後、県社協や県内社協などが協力し、被災地での復興公営住宅への移行支援の研修テキストを作成する予定である。



阪神・淡路大震災の経験を東北につなぐ

兵庫県からつなぐ
被災地支援

兵庫県内の社協、社会福祉施設、NPO、職能団体等の救援活動を紹介します



兵庫県社会福祉大会
を宝塚市で開催!

9月18日、宝塚ホテルにて兵庫県
兵庫県社協宝塚市宝塚市社協の4
者共催による第62回兵庫県社会福祉
大会が開催され、県内各地から社会
福祉関係者約850人が参加した。
この大会は、昨年に引き続き「ス
トップ・ザ・無縁社会」全県キャンペー
ン協賛事業として開催され、会場内
でのパネル展示、幹事団体や昨年の
活動を紹介するムービーの映写
ブースが設けられたほか、参加者に
対して啓発チラシやクリアファイル
などが配布された。



主催者としてあいさつする井戸敏三県知事

大会では、地元ボランティアの
コーラスにより華やかにオープニン
グが飾られた後、表彰式典が執り行
われ、兵庫県知事ら主催者代表者、
来賓代表の兵庫県議会議長からの
あいさつが行われた。また、永年にわ
たり社会福祉の向上に貢献された
約780の個人と団体が表彰され、
代表者に対して県知事、県社協会長
の表彰状が贈呈された。



「いま幸せですか」と語りかける
大村崑氏

戦後すぐの神戸などの情景や当時の
人と人のつながりなどを振り返りな
がら、人と人が支え合つこと、絆やつ
ながらの大切さを語りかけた。また、
元氣いっぱい高齢期を過ごす秘訣
などについても楽しく語られ、会場
は参加者のたくさん笑い声に包ま
れ、盛況のうちに閉会した。

赤い羽根共同募金
運動を街頭でPR!

67回目を迎えた赤い羽根共同募
金のオープニングセレモニーが10月
1日に神戸市中央区の神戸元町商
店街で行われました。

神戸市長田区の近田幼稚園児の
代表2人による開会宣言から始
まったセレモニーでは、石田等県共
同募金会会長のあいさつに続き、A
NA客室乗務員の武貞絵里さん
による厚生労働大臣および中央共同
募金会会長メッセージの伝達が行
われました。その後、近田幼稚園児
121人による鼓隊パレードや、
神戸地域活性化アイドルユニット
「KOBerries」(コベリーズ)の
路上ミニライブが行われ、多くの方



街頭で行われたセレモニー



KOBerriesと近田幼稚園児によるパレード

共同募金は、募金
に協力することで、
地域福祉活動への
支援につながり、県
民の誰もが参加す
ることができる運
動です。本年も皆さ
まのご協力ご支援
をよろしくお願
いいたします。

へ共同募金運動のスタートが周知さ
れました。

また、県共募
マスコットの
「あかはね
ちゃん」や、
ヴィッセル神戸
マスコットの「モー
ヴィ君」、ヴィッセルガールなどが募金
の協力を呼びかけました。



共同募金をPRする
あかはねちゃん

兵庫県での共同募金運動は「やさ
しさが必ずとどく、赤い羽根」の運
動スローガンのもと、12月31日まで
行われ、目標額は5億5,897万
1,000円としています。集められ
た募金は社会福祉施設や地域福祉の
推進を目的とした団体事業、災害時
の被災者へのボランティア支援活動
などに役立てられます。

福祉職場の人材確保・
定着に向けた
ノウハウを学ぶ

福祉関係の社会福祉法人・事業所
の人事・採用担当者等を対象に「採
用力向上研修」を9月12日に開催
し、56人の参加があった。

本研修は、介護福祉職員の人材
確保について困難な状況が続く中、
優秀な人材の「確保」に向けた効果
的なPR方法等のノウハウや、職員
の「定着」に関する成功事例等を学
びたいという事業者の声があったこ
とから、今年度の新規事業として実
施したものの。



人材確保のノウハウを伝える小野山氏

今回の講師は(株)アイデム人と仕
事研究所の小野山哲朗氏。研修で
は、「自施設にあった人材の採用定
着」「自施設の魅力を求職者に伝え
る」「自施設にあった採用計画、戦略
の立て方」などについて、講義やグ

ループワークを通じて参加者の気
づきを確認しながら進められた。
特に「確保」に関しては、「求職者
は、施設の雰囲気や利用者、職員の
表情まで見ている」「自法人の売り
をしっかりと伝える」「こんな人と仕
事をしたい、こう育てていきたい」と
いう思いが言える「など、これまで気
付けていなかった点や今後に生かせ
る考え方を学ぶことができた。
また、定着に関しては、離職理由の
上位に人間関係の問題や施設の経
営方針等への不満があがっているこ
とから、参加者それぞれの施設にお
いて「活気ある職場づくり」に何が必
要なのかを問い直す機会となった。



グループでの討議により「気づき」が深まる

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

利用者の家庭復帰に向けた支援を行います

一般社団法人 兵庫県介護老人保健施設協会

介護老人保健施設(通称:老健)は、医療・福
祉・介護と、また在宅と病院・施設の「中間施
設」として位置づけられ、高齢者の方々を家庭
に戻られるため、さまざまな専門職によるサ
ービスを提供する施設です。

兵庫県介護老人保健施設協会は、「高齢者
の医療・福祉に関する調査研究、知識の普及
を推進するとともに介護老人保健施設の機
能の向上を図り、もって少子高齢社会におけ
る真に豊かな福祉社会づくりに寄与する」こ
とを目的として平成2年11月に設立され、当
初は10の施設でスタートした会員施設も、現
在では県下145の施設を数えるまでになりま
した。

こんな取り組みをしています

- 1 高齢者の医療・福祉に関する調査研究
- 2 ホームページ(<http://www.hyorken.jp/>)や機関誌「老健ひょうご」の発行などを通じた情報提供・啓発事業
- 3 施設職員の知識・資質・技能等向上のための各職種別研修(8研修)や県外の先進施設への視察研修
- 4 県民や他団体の関係職員も対象としたシンポジウムの開催
- 5 全国老健大会や近畿ブロック老健大会への運営協力等



施設職員のための研修を実施

連絡先 一般社団法人 兵庫県介護老人保健施設協会
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2-1-1兵庫県福祉センター
☎078-265-6933 FAX078-265-6934
E-mail hyoroken@muse.ocn.ne.jp

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

問い合わせ先
兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

**田辺三菱製薬
手のひらパートナープログラム**

患者の療養・就労生活の改善等、QOL向上実現のために取り組んでいる難病患者団体およびその支援団体へ助成します。

対象 厚生労働省が定める「難治性疾患克服研究事業対象疾患130疾患」として定める難病の患者とその家族等が所属する、国内に主たる活動拠点を有する団体

助成額 1件上限100万円(総額1,000万円)
締切り 平成25年11月15日(金)

☎☎公益社団法人 日本フィランソロピー協会
 TEL 03-5205-7580

URL <http://philanthropy.or.jp/tenohira/02palm/>

**公益財団法人損保ジャパン記念財団
NPO基盤強化資金助成**

障害児・者、高齢者などを対象として活動するNPOの支援、社会福祉の学術文献表彰、学術研究・文化活動などに助成します。

対象 中部・近畿地区に所在し、社会福祉に関する活動を行う特定非営利活動法人・社会福祉法人

助成額 1団体上限50万円(総額900万円予定)
締切り 平成25年11月15日(金)

☎☎公益財団法人損保ジャパン記念財団
 TEL03-3349-9570

URL <http://www.sj-foundation.org/jyosei/kibankyouka.html>

**公益財団法人損保ジャパン記念財団
認定NPO法人取得資金**

地域の中核となり、持続的に活動する質の高いNPO法人づくりを支援します。

対象 社会福祉分野で活動し、認定NPO法人の取得を計画している特定非営利活動法人

助成額 1団体30万円(総額600万円予定)
締切り 平成25年11月15日(金)

☎☎公益財団法人損保ジャパン記念財団
 TEL03-3349-9570

URL <http://www.sj-foundation.org/jyosei/nintei-npo.html>

**公益財団法人
JR西日本あんしん社会財団
平成26年度活動助成**

事故、災害に対する備えに関する活動や、災害後の心身のケアに関する活動に助成します。地

域コミュニティ形成に向けた新たな仕組みづくりや関係づくりなどの活動も歓迎します。

対象 近畿2府4県に拠点があり、募集開始時点において1年以上の継続活動実績がある団体(上記の条件を実質的に満たすものとして本財団が認める団体)

助成額 1件70万円以下(総額5,000万円程度)
締切り 平成25年11月18日(月)

☎☎公益財団法人JR西日本あんしん社会財団
 TEL 06-6375-3202

URL <http://www.jrw-relief-f.or.jp/aid/katsudo.html>

JT NPO助成事業

日本国内において、地域社会の核となって実施する、地域コミュニティの再生と活性化につながる事業に対し助成します。

対象 ①～③のすべてを満たす法人①非営利法人②平成25年9月30日時点で法人格を有して1年以上の活動実績を有する法人③設立目的や活動内容が、政治、宗教、思想などに偏っていない法人

助成額 1件上限150万円(40件程度)

締切り 平成25年11月20日(水)

☎☎日本たばこ産業株式会社 CSR推進部社会貢献室
 TEL03-5572-4290

URL <http://www.jti.co.jp/csr/contribution/social/np0/entry/index.html>

**日本社会福祉弘済会
平成26年度 社会福祉助成事業**

社会福祉関係者の専門性向上などを目指した「研修事業」や「研究事業」に対し助成します。

対象 社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする社会福祉法人、福祉施設、福祉団体、グループ

助成分野 研修事業(①集合研修②派遣研修)、研究事業(③実践研究④調査研究)

助成額 助成対象経費合計の80%以内かつ50万円以内

締切り 平成25年12月13日(金)

☎☎公益財団法人 日本社会福祉弘済会 助成事業申請係
 TEL 03-3846-2172

URL <http://www.nissshasai.jp/>

**公益財団法人みらいのつばさ財団
自立・奨学支援制度**

困難を抱えた子ども達の自立のための一助として支援します。

対象 ①児童養護施設②母子生活支援施設③里親委託児童④ファミリーホーム⑤その他の児童福祉施設のいずれかに入所しており、原則18歳を迎え進学・就職する予定の児童

助成額 進学・就職の支度金として1人15万円

締切り 平成25年12月25日(水)

☎☎公益財団法人みらいのつばさ財団
 TEL03-5642-7890

URL <http://mirainotsubasa.or.jp/>

研修・イベント

高次脳機能障害リハビリテーション講習会

事故や病気の後遺症で、記憶力や注意力などが衰えたり、感情のコントロールができなくなったりする「高次脳機能障害」について、理解を深めるための講演と、個別相談会を行います。

日時 平成25年12月21日(土)13:00~16:30

会場 木口記念会館(芦屋市呉川町14-10)

入場費 無料

☎☎ひょうごリハビリテーション講習会実行委員会
 TEL078-452-3082

URL <http://hyogo-self-help.main.jp/>

行事予定

- 11月 1日 福祉サービス利用援助事業 生活支援員(現任)研修◆県福祉センター
- 2・3日 ふれあいの祭典阪神南ふれあいフェスティバル◆尼崎の森中央緑地
- 6日 福祉の就職説明会 AUTUMN in HYOGO(尼崎会場)◆あましんアルカイックホールオクト
- 8日 若年性認知症生活支援基礎セミナー(全5回)◆明石商工会議所
- 15日~ 障害福祉施設系事業所リーダーゼミナール(全4回)◆県社会福祉研修所
- 12月 3日 第2回地域福祉推進部会◆県福祉センター
 第2回市町社協活動推進協議会幹事会◆県福祉センター
 経営協 法人経営トップセミナー◆ANAクラウンプラザホテル神戸
- 4日 民生委員児童委員 辞令交付式◆県公館
- 5日 第2回権利擁護部会◆県福祉センター
- 6日 第2回福祉事業推進部会◆県福祉センター
 看護職員研修◆県社会福祉研修所
- 10日~ 介護支援専門員 実務従事者基礎研修◆県社会福祉研修所ほか
- 25日 児童福祉施設・保育所中堅職員研修◆県社会福祉研修所
- 26日 県社協 第232回理事会・第178回評議員会◆県福祉センター

経営理念

私たちは「人と人との出会い」とそこから生まれる「コミュニケーション」を大切に、心豊かな社会の発展に貢献します。

私たちはお客様と心のお付き合いをし、こたわりに応えるサービスと商品を提供します。

私たちは地域の一員として、内外で人々の交流の場を創出し、地域社会の発展に寄与します。

私たちは一人一人が資質の向上に努め、お互いが信頼できる風通しの良い会社を築きます。



〒650-0038 神戸市中央区西町35 三井神戸ビル3F
 Tel: 078-321-5005
 Fax: 078-321-5019

日本初!!ミニバン用
後付け式 車いす昇降リフト



あなたの車が福祉車に変身!

- ①あなたの街へ出張取付いたします
- ②3~4時間で装着いたします
- ③車の改造をしません
- ④定員乗車ができます
- ⑤元の車に戻せます
- ⑥税金・補助金の助成があります



小売価格 ¥675,000 (いずれも非課税)
 取付費用 ¥ 38,000

有限会社 ラックス

<http://www.lilac-ml.jp> または「ムービングリフター」で検索
 〒435-0052 静岡県浜松市東区天王町103 TEL 053-421-6409 FAX 053-422-5025